

## 企画情報部報（平成二十五年度）

異 動（平成二十四年四月一日付を含む）

企画情報部文化財アーカイブズ研究室長綿田稔は平成二十六年四月一日付で文化庁文化財部美術学芸課文化財調査官（絵画部門）に転出した。

企画情報部長田中淳は平成二十六年四月一日付で文化財アーカイブズ研究室長を兼務となった。

企画情報部情報システム研究室長二神葉子は平成二十六年四月一日付で文化遺産国際協力センター国際情報研究室の兼務となった。

オープンレクチャー

第四十七回目のオープンレクチャーは、「モノ／イメージとの対話」をテーマに掲げ、研究所セミナー室において左記の通り開催した。

十月四日（金曜日）午後一時半～四時半

平安仏画の表現―虚空蔵菩薩と千手観音像―

小林 達朗

高麗仏画の表現―凝縮された美―

東国大学校 鄭 于 澤

十月五日（土曜日）午後一時半～四時半

螺鈿を訪ねて西へ東へ―五千年の世界史を探る―

小林 公治

世界遺産―現状と問題、将来像―

二神 葉子

黒田清輝共催展

昭和五十二年以来、毎年行ってきた黒田清輝共催展（近代日本洋画の巨匠黒田清輝展）を七月十三日（土）から八月二十五日（日）まで、長野県信濃美術館で開催した。

国際研究集会のための事前・事後の協議・研究会等

四月十一日

開催趣旨文・日程・各セッション・発表者についての協議

四月十六日

開催趣旨についての協議・検討

企画情報部報

四月二十五日 ハーバード大学ユキオ・リピット氏を交えての協議

四月三十日 各セッション発表者についての協議

五月九日 基調講演・各セッション案についての協議

五月三十日 発表者の応諾等の進捗状況の確認と協議

六月十日 発表者選定についての協議

六月二十六日 各セッション構成・司会者についての検討

七月一日 各セッション構成についての検討

七月二日 同

七月三日 組織委員会の開催

七月五日 組織委員会での指摘事項の協議

八月二日 事前研究会 初期近代イタリアの庭園と記憶術

大阪大学 桑木野幸司

九月十日 事前研究会 近代初期の和風建築について

東海大学 小沢 朝江

十一月六日 事前研究会 ポロックをポロックとして見る

―ジャクソン・ポロックのオールオーバーのポード絵画

愛知県美術館 大島 徹也

十一月二十七日 趣旨説明、各セッション趣旨の内容確認

十二月二十七日 同

三月十三日 総括と展望に関する協議

国際研究集会

第三十七回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会は、企画情報部の担当により「かたち」再考―開かれた語りのために―をテーマとして、平成二十六年一月十日（金）から一月十二日（日）の日程で、研究所セミナー室および会議室を会場として開催した。なお、報告書は平成二十六年度中に刊行の予定。

研究会

四月三十日

華族写真同人誌『華影』考 松江市戸定歴史館 齊藤 洋一  
黒田清輝の写真観 田中 淳

華族たちの写真同人誌『華影』と黒田清輝宛

小川一真書簡 東京都江戸東京博物館 岡塚 章子

五月二十八日

四天王寺所蔵六幅本聖徳太子絵伝をめぐる諸問題

東京国立博物館 土屋 貴裕

龍谷ミュージアム 村松加奈子

名誉研究員 米倉 迪夫

コメンテーター 龍谷ミュージアム 石川 知彦

六月五日

「中国彫刻」を想像する

アメリカ・デューク大学 スタンレー・アベ

コメンテーター 大分大学 田中 修二

保存修復科学センター 岡田 健

七月三十日

東京国立博物館蔵国宝本・千手観音像の表現 小林 達朗

九月二十四日

新出資料紹介『第八回白馬会展覧会出品目録』

福岡大学 植野 健造

十一月二十六日

板本桓齋著『画傳幼学繪具彩色獨稽古』及び、

写本『彩色童諭』について 東京藝術大学 染谷 香理

十二月六日

観心寺如意輪観音像再考 信州大学 佐藤 全敏

補論1 左大寺古文書と造西寺所

補論2 承和期様式(作風)の成立をめぐる

二月二十五日

ミニシンポジウム「アート・アーカイヴの諸相」

美術アーカイヴのなかの美術史 広島市立大学 加治屋健司

アーカイヴと前衛―表現の非永続性 ephemerality と

資料体 慶應義塾大学アートセンター 上崎 千

中村宏氏作成ノートに残された記録と資料

―観光芸術研究所、東京芸術柱展を中心に 橋川 英規

三月二十五日

美術史料のデジタル公開を念頭に置いた

ウェブ版『みづゑ』の研究と開発

―『みづゑ』のウェブ公開と美術アーカイブへの展望―

津田 徹英

国立民族学博物館 丸川 雄三

国立情報学研究所 橋川 英規

国立情報学研究所 中村 佳史

国立情報学研究所 吉崎 真弓

刊行物

『日本美術年鑑 平成二十四年度版』

平成二十六年三月

本誌第四一―二号掲載の展覧会評「狩野山楽・山雪」の訂正

本文中でふれた故土居次義博士の調査ノート(京都工芸繊維大学附属図書館)に

ついて、今回の「狩野山楽・山雪」展が初公開であるとなりましたが(三二頁)、二

〇一年にMIHOMUSEUMで開催された「長沢芦雪 奇は新なり」展(会

期三月十二日―六月五日)が初公開(カタログ番号37)でした。また、狩野山雪筆

「老梅図襖」(メトロポリタン美術館)の日本国内の初展示を二〇〇九年の「妙心寺

展」(東京国立博物館・京都国立博物館)であるとなりましたが(三一頁)、一九八二

年に京都国立博物館で開催された「花鳥の美―絵画と意匠―」展(会期十月五日―

十一月十四日)が初展示(カタログ番号243)でした。

以上二点の誤りについては、本誌刊行後、「狩野山楽・山雪」展の企画開催の中

心になった山下善也氏(当時京都国立博物館、現東京国立博物館)より指摘を受け

ました。ここに謹んで山下氏のご指摘に感謝申し上げます。(鈴木廣之)